参考資料４

区の各施設のサインに関する実態調査の主な結果とユニバーサルガイドライン素案への反映状況一覧

【調査内容】サイン作成時または施設運用開始後における、サインや掲示物についての「困ったこと」や「施設特性に応じた配慮」など

No.	掲載場所	頁	実態調査結果	ガイドラインへの反映
1	サインの機能維持・経済性を考える	23	屋外サインは、日光により印刷が劣化する。 施設特性上、部屋の名称・使い方が変化しやすいため、触知案内板の表示変更について苦慮している。	・「サインの仕様」に「サインの機能維持・経済性を考える」という項目を設け、維持管理を踏まえた耐久性・可変性への配慮について記載した。
2	見やすさについて考える	23	部屋名等の変更があったときに、修正しやすいフォントを使用してほしい。	・「文字の書体」において、汎用性が高い書体選びについて記載した。
3	理解しやすさについて考える	29	通路の進行方法を記すため、テープを使用し矢印を配置した。	・「矢印」の特徴と配慮事項について記載した。
4	掲示物	31 32	注意喚起等の追加表示が発生し、表示物が多くなり景観を損なっている。	・「運用開始以降に考えること」の「掲示物」の中で、あらかじめ掲示物に関するルールを定めることの必要性を記載した。
5	全体的	―	区には統一的なサインの基準や考え方が整理されていない。	・「サインによるユニバーサルデザイン」について、ユニバーサルデザインガイドラインに追加する予定である。
6	全体的	―	地域や施設特性、利用者属性を生かした取り組みや色の使い方に配慮している。	・事例集や資料編を作成する段階で掲載を検討する。

※このほか、サインにおける多様な人への配慮の取組がいくつか報告されたため、事例集や資料編を作成する段階で掲載を検討する。